

公民館空調機器整備の実施

多方面からの要望に応える形で、空調機器の整備計画を進めていますが、ほぼ固まりつつあります。

決して安い金額の機器ではありません。しかし安い値段の品物で使用する際に不満が出るようなものは、自治会の施設として失格です。

専門家に調査、試算をお願いしたところ、この広さと天井までの高さでは室内容量が通常の機器では不十分であると結論付けられました。

出力10馬力で室内機2台が、最も望ましいということですが、価格はメーカーの希望価格は266万7千円ですが、様々な方面からの力添えもありほぼ半額程度にまでなりそうです。同じ出力10馬力でも室内機を1台にすると、少し価格が下がります。8馬力の場合は使用数時間前から運転をしないと困難との報告でした。

10馬力の出力で、何とか価格を抑える形で進めていきたいと交渉を進めています。

自治会長 原田哲夫



夏の草刈りは暑さ対策も重要、慎重に作業

農作業の中で、一番厳しい作業は「除草作業」と言われます。もちろん機械化が進み、鎌を使って手作業で行うことは細かいたとこ以外にはありませんが、特に草の成長の早い夏は、雑草との闘いともいわれます。

八方原の環境を守る会では国の条例に従い、契約している場所の該当する施設

「夏」雑草との闘い本番

に対する作業について、作業日当を支払っています。八方原地区では水路、農道が基本になりますが、圃場整備をした行った場所とその関連の施設になります。

市道は対象外ですが、農地に隣接している場所に限り、事業の対象となります。圃場の畦部も水路に面しているところは対象ですが、水田と水田の間

の畔は営農事業対象となり、多面的機能発揮の事業対象ではありません。農地所有者に5、7、9月の第一日曜日を基準として除草作業をお願いしています。本事業は「共同作業」が基準なので、その日に作業をすることが無理な方は、自分のご都合が良いところで作業をお願いします。きれいな八方原を守りましょう。

お盆の墓参りの前に通路の除草

墓地管理の除草作業が7月25日に行われました。旧来からの墓地を含めて

3か所の墓地があります。

古い墓地には六地藏があります。ここから山の上あつた火葬場まで、遺骸を運びあげていた名残りだろうと言われています。

ほとんどの参加者が刈り払い機など機械力を使いますので、比較的短時間に作業は終わります。しかし、一年で一番暑い時期の作業です。薬ではあり



朝日を浴びながら作業開始、既に管理者のいない墓石もある



作業が終わって、三々五々家路に帰ります。朝の早い時間です。作業を終えて、自分の作業に戻る人、墓地の掃除をする人それぞれでした。

最後は手作業に頼らざるを得ない



ずらりと並んだ軽トラック、法人のメンバーが集結

水田の中も雑草との闘いが続いています。田植えの際に、何種類かの薬剤が一緒に撒かれます。その中には「除草剤」も含まれています。それぞれの薬剤はカプセル

に入れられており、カプセルの妖怪速度がその薬剤の効果的な時期になるように調整されています。

除草剤は早く溶けるように作られています。

ところが植え付け直後に、水田に多くの水を入れてしまうと、ジャンボタニシの活動が活発になって、苗を食べべてしまいます。

そこで農事組合の水利担当は、ぎりぎりまで、水位を低く保つように、水量を調整します。しかし、水田の高さ



ぽっかりと稲のないところが出現する

猛暑に負けるな 頑張れ、根性ヒマワリ



原田孝夫さんの畑の隣の道路端に芽を出したひまわり

道路の脇、コンクリートの隙間に根を張り、成長する雑草。水も肥料もやらないのに逞しく育ちます。しかし、雑草ではなく、大きな花をつけることのある「ヒマワリ」にも逞しい生命力を持つものがあります。昨年も大きく育ちましたが、今年は別の場所で咲きそうです。見守りましょう。

は、それぞれ異なります。

相対的に土壌面が高いところは、水位が下がると早くから乾いてしまい、除草剤の効果が出ない状態となります。反対に低いところは、いつまでも水面に覆われて、除草剤の効果は高いのですが、タニシの食害をうけることになりやす。

田植えから稲が定着するまでの水位のコントロールが大変難しく、休みの監視体制が求められます。しかし、どうしてもカバーできないところも何か所かでてしまいます。それが上の写

「オンライン」だけじゃできないこともある

「山口県も新型コロナウイルス感染の第5波が来ている」村岡県知事が警戒を呼び掛けています。

様々な会議や集会が中止になったり、インターネット回線を使った「オンライン型」や書面での決議となつていきます。県外への旅行などを控えるようにとも言われています。

会議もオンラインでできることはできるのですが、お互いの表情の変化を読み取りながらというところまでは進みません。

また地域イベントが開けない状態です。そのことで直ぐに困ることがある

真のように、人海戦術で圃場の中の雑草退治をすることになるのです。反対

に水が多くなると、下の写真のように縦横何列にもわたって、苗が植えられていないような場所ができてしまいます。

田植えの前に行う「代掻き」。この作業では圃場の平坦度も大きなポイントになります。一つの圃場の水位を一面的に保つのは均一性が必要になります。「この圃場は代掻きがうまくできなかった」関係者が悔しさを噛み殺しました。

わけではありませんが、そのような時しか顔を合わせることのない人もいらっしゃると思います。その機会は無くなつたしまいました。

それは地域、自治会の連帯力に直接影響する気がします。早く元通りになるとよいですね。

八方原子ども会
リサイクル活動

8月15日 朝

新聞・雑誌・空き缶を中心に行います。各ご家庭でご用意お願いいたします。

八方原子ども会